

私のリウマチ30年史

川崎市在住 80歳代 A.S.様からのお手紙

岡先生が、本年で医師生活31年とお聞しました。私も、リウマチ歴は31年めですが、ほぼ30年岡先生のお世話になっております。そこで、私の30年余のリウマチ歴をまとめてみました。

昭和57年突然左人差し指がバネ指になりました。整形外科に行きました。「一寸痛いけれど明日から普通に動くよ」と指の付根関節に注射をして下さった。「奥さんこれから先が思いやられるね。」と言われましたが、「まだはっきりとリウマチとは診断されませんでした。

2、3年経ってから膝が痛くなり、その後水も溜まるようになり、聖マリアンナ医大病院の整形外科に行きました。関節症状と検査結果からリウマチと診断されました。痛み止めなどの薬をいろいろ頂きましたが、時々水をぬくようになってきました。だんだん関節が横脚になり痛みを感じるようになりました。当時は、リウマチは不治の病といわれていましたので、楽観的な私でも不安でいっぱいになっていました。「ああ、私も身体障害者になってしまうのかな」

当時の聖マリアンナ医大の第1内科には、リウマチ膠原病グループがあり、水島裕先生という有名な先生がおられました。私もリウマチと診断されたので、転科することになったのです。そのグループの研修医に岡先生がおられました。第1印象は、「随分御若いのに、言う事はしっかりしているのね」と感じました。その後、リウマチは、ずっと水島先生と岡先生にお世話になると決めました。「リウマチで身体障害者になるかもしれない」という不安から「私のリウマチは良くなるかもしれない」と変わっていったことを覚えています。

少しずつ痛みが減って、やっと一息いれていた時に大きな出来事が起こりました。血液検査でヘモグロビン6.4と云われ何の知識もない私。立ちくらみ色白になり初めて貧血に気づきました。その日、岡先生は「入院申込してあるから手続きをして帰るように」・・・「主人とペットいるから」・・・「ご主人はなんとかなる、あなたが倒れたら大変」と強い口調でおっしゃり、貧血の大事なことをやさしく説明して下さいました。当日は、入院手続きして帰りました。1ヶ月入院加療しました。結果は大腸の「虚血性腸炎」でした。先生によるとリウマチの症状として考えられると。その後、貧血も改善して元気に退院

できました。

しかし、その後膝は増々変形し、歩行困難になってきました。当時は人工関節の寿命はまだよく判らなくて、「手術しても歩けなくなるのでは、車椅子になっちゃうの」と心配する時代でした。平成8年2月に右膝の人工関節の手術しました。当時の整形外科に名人であった青木先生が執刀され、手術は成功しました。「杖で歩ける。椅子の生活が始まる。膝90度しか曲がらない」。痛みはなくなり嬉しかったです。6月頃反対側の左膝が腫れ水が溜まるようになりました。毎週とつてもとつても泉のように溜まる。骨、もったいないけれど手術よりほかないと同年12月に再度入院。看護師さんに「お世話になります。」「何時かまた入ってくると思ってた。リウマチは左右対称になるのよ。」と笑顔で迎えて下さって安心しました。2月に退院。自分の足で歩ける。嬉しかったです。周囲に反対意見があったけれど、やっぱり先生のおっしゃる通りに手術してよかった。人工関節はいまでも磨耗せずにもっています。

手首が腫れ握力がなくなり野菜の固いものは切れない。物を落とす。食器等どれほど壊したことでしょう。下肢筋力低下と云うレッテルを貼られました。大腿骨を2度も骨折しよく転倒するようになりました。また、気分が落ち込むようにもなりました。ある時娘に力付けられた言葉は、「お母さんこれからやる事趣味の編み物やリハビリいっぱいあるよ。楽しまなければネ。」私よりもっとひどい方がいらっしゃる。くよくよせず前向きに明るく楽しく暮らすよう頑張らなければ。これからも出来る事は自分でやって行きたい。その後もなるべくできることは自分でやるように心がけてきました。先生に言われたリハビリも継続しています。

現在30年以上経過しても手の指も変形もない。指の体操、足腰のリハビリストレッチ、デザート替わりのお薬、転倒しないように注意しています。30年前の患者さんたちは、ほとんど音信不通になっているが、今でも岡先生のとろに自力で通院できています。現在のようにリウマチの治療はそろっていない時代でしたのに。リウマチは不治の病、身体障害者になる病気と周りから言われてきたので奇跡のようです。30年間ずっと1人の先生に観ていただいたことがよかったのかもしれませんが。先生は30年前と全く変わっていません。研修医のころと教授になったいまでも全く変わりません。いつも患者さんに寄り添う医療なので、何でも聞けます。時には、愚痴もいいます。よく先生は、診察中に冗談をいいます。診察室からは、よく笑い声が聞こえてきます。なんだ

か元気になります。「明るく、前向きに」が身体を保つ秘訣かもしれません。

今までお世話になりました皆様に感謝の気持ちを忘れずに、今の体調を維持して行きたいと思っております。

30年間本当にお世話になりました。これからもよろしく申し上げます。